

## 弟子たちの足を洗う ヨハネによる福音書 13:1-10

1. さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、(13:1-2)
  - a. ヨハネはいつもイエスの公生涯を過越の祭りの時間枠の中で説明していることにお気付きだろうか。まずヨハネ 11:55「さて、…過越の祭りが間近であった」に始まり、12:1「過越の祭りの6日前」、12:12「その翌日」、13:1「さて、過越の祭りの前に」。ヨハネの福音書全体から見るとこれはイエスの死の前の3度目の過越の祭りである。他の2回は2:13と6:4に出てくる。
  - b. ヨハネの福音書は、一千年以上前イスラエルがエジプトの奴隷であった時に予表された過越の子羊(1:29)と、その成就であるイエスとのつながりを明確にしている。初めての過越の祭りはエジプトに対する神の裁きとイスラエルの奇蹟的な脱出の夜の食事で、モーセを通して神が定められた。
  - c. 一千年以上前に神が奇蹟的にイスラエルをエジプトから解放されたように、イエスは人類を罪の束縛から解放してくださる。この箇所では神の愛と解放の計画が働いているのと同時に、神の救いの計画を阻止しようとする悪魔の手がしのびよっているのを読み取ることができる。
2. イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまどわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまどっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。(13:3-5)
  - a. イエスが弟子たちと過ごす最後の数時間、イエスは彼らから見捨てられ、十字架にかけられることをご存知でありながら、いつものようにご自分を無にし、しもべとしての奉仕をされる。
  - b. 神の目に本当の意味ですばらしいのは仕える者である。イエスはご自身が偉大な方であることをご存知でありながら、それを言葉でなく行動で示された。
  - c. ヨハネが描写するこの場面はいろんな意味で非常に象徴的である。イエスは上着を脱ぎ手ぬぐいを付け、水を入れ弟子たちの足を洗われた。ここでは上着は人格を象徴している。イエスは人類に仕え犠牲となるためにその神としてのご性質を捨てられたと聖書は言っている。では足を洗うとはどのような意味があるのだろうか？
3. こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにならないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」(13:6-10)
  - a. ペテロは、足を洗うのはしもべの仕事であり弟子たちがイエスに仕えるべきなので、イエスが自分の足を洗うことを受け入れられないようである。ところがその後ではイエスにお願いするほどのずうずうしさも見える。
  - b. イエスが手や頭を洗われないのは興味深い。足、手、頭は何を象徴しているのだろうか？洗うとはどのような意味があるのだろうか？イエスはこれらのことは後になってわかるようになるとおっしゃる。
  - c. これらのことを知り理解するのは大切だが、私たちの人生の中で主が働いてくださるようになることも大切である。